

三重大大学の学生支援

特集

あなたの学生生活

サポートします!



大学生活にはチャレンジがいっぱい!
今回は、そんな大学生活をサポートするあれこれを紹介しします。

大学による学生支援

◎学生なんでも相談室

<http://www.mie-u.ac.jp/life/consultation/index.html>



学生生活を送る上で困ったことや分からないことが起きた時に気軽に相談できる場所です。相談内容は本当に何でもOKですが、友達や先生との関係、研究室・サークル等での人間関係にまつわる相談が多く、電話やメールも含めて年間1000件ほどの相談が寄せられます。

まずは受付を担当するインテーカーが相談内容を聞き、継続相談としてカウンセラーが対応するか、解決できる他の窓口を紹介するか検討します。学生支援チームや各学部、保健管理センターとも連携して問題の解決を図り、必要な場合は県や市等の学外の窓口を紹介することもあります。



ゆっくり話をしながら、一緒に解決方法を考えます。

◎新入生へのメッセージ

学生なんでも相談室長 鈴木 英一郎 講師

大学生活では、良いことも悪いこともいろいろあると思います。いろんな人と関わって、今自分に見えている世界だけが世界のサイズではないと言うことを知っていきましょう。もし、人と関わるのが苦手でも、自分なりの世界を広げる方法を探してほしいと思います。

なんでも相談室では、こんなことで...と思うような小さなことでも、誰に聞いたらいいかわからないことでも、本当に「なんでも」相談を受付けています。困ったことがあれば、いつでも気軽に来てくださいね。



学生支援
チームに行けば
わかるよ!!



◎奨学金

日本学生支援機構をはじめ、地方公共団体や民間団体等の奨学金の募集も行っています。それぞれに選考基準があり、本人の申請が必要です。募集時期は4~5月に集中しています。

◎課外活動

三重大大学には、体育系クラブ・サークル72団体、文化系クラブ70団体(平成29年8月17日現在)があり、全学生の約75%が参加しています。希望の活動団体がない場合には、会員3名と顧問教員がいれば自分で団体を立ち上げることもできます。



今回は
ギターマンドリン
クラブと
表千家茶道部を紹介!
18ページを
見てね!

この他に
環境ISO学生委員会、
大学祭実行委員会等の
委員会もあるよ!



◎障がい学生支援

障がい学生支援室

<http://www.mie-u.ac.jp/life/supportstudents/index.html>



障がいや病気が理由で学生生活に困難を感じる学生の相談を受付けています。一人一人と面談して、どのような配慮が必要かを話し合い、それぞれの学生が所属する学部において、配慮や支援を受けられるよう調整していきます。

学生の直接来談のほか、保護者からの電話相談も多く寄せられます。また、入学手続き時に提出できる相談申込書による申請も多く受付けています。

その他、教職員の障がいに関する理解を深めるための啓発活動も行っています。

また、学生なんでも相談室やキャリア支援センター、保健管理センター等、学内組織や外部とも連携しながら、サポートを行っています。



◎新入生へのメッセージ

森 浩平 講師

障がいや病気で困っていること、少しでも心配なことがあれば、障がい学生支援室へお気軽にご連絡ください。

入学時だけでなく、グループワークや実習、ゼミ配属、就職活動等、学生生活の各時期において生まれる困りごとにも対応と一緒に考えていきます。

◎学生寮 寮生インタビュー

◎安濃津寮(男子寮)

収容現員/98名
(平成29年12月現在)

部屋の間取りは8畳ほどで、ベッドと机が備え付けです。キッチンや洗面所、お風呂等は共有です。

恒例になっている交流イベントもあり、人間同士の距離が近いので、一人暮らしより友達ができやすいと思います。人というのが好きなのは身近に友達がいるから楽しいと思います。

寮長及び副寮長等が寮の運営を担い、寮生全体が楽しめるイベントの企画や寮費の使い道も決定していきます。また、全体会議の寮生大会が年4回あります。

共同生活なので守らなければならないルールや掃除等の当番もありますが、良いところはなんといっても家賃が安いこと。光熱費が寮費に含まれているのもありがたいです。



◎学生による学生支援

学生も同じ立場から様々なサポート行っています。助けてもらうだけでなく、もしかするとあなたも誰かの力になれるかも…!

◎障がい学生サポーター



障がい学生サポーターは平成29年10月から本格的に始動したばかりのまだ新しい団体です。現在は実際に学内を見て回り、スロープやトイレなど使用者が求めている情報をまとめた学内のバリアフリーマップを作成中です。メンバーは、障がい者への接し方を常識として知っておきたい、現場でどんな配慮がもめられるのか学びたい等、それぞれの理由を持って活動に参加しています。

今後は学内で障がいへの理解を深めるための勉強会や障がいのある方との交流会を開催したり、ノートテイク等の技術を習得して障がい学生の学生生活を助ける活動をしていきたいと考えています。ほとんどゼロから手探りで活動ですが、これからどんどん活動範囲を広げていきたいです。

◎清和寮(女子寮)

収容現員/60名
(平成29年12月現在)

個室にはベッド、机、棚、冷蔵庫があって6畳ほど。キッチンや洗面所、お風呂等は共用です。

寮内には10人ごとのブロックがあり、週に1回会議をするほか、備品購入や全体の掃除当番等を取りまとめる委員会があります。また、半年に一度、改善したいことを話し合う寮生大会という全体会議もあります。

何より嬉しいのは家賃が安いこと、大学に近いこと。近くの部屋の人や同じ学科の人とは仲良くなりやすいです。門限もないので結構自由です。

寮生同士の距離感も本当に人それぞれですが、自分で程よい距離を決めていけます。

オートロックや防犯カメラもあるので、一人暮らしよりは安全だと思います。誰もいない日はないので、いざという時絶対一人じゃないという安心感があります。



◎碧海寮(国際女子寮)

収容現員/74名
(平成29年12月現在)

個室の大きさは8畳くらいで清和寮より少し広い印象です。各部屋にユニットバスつきで、ベッド、机、棚、ロッカー、冷蔵庫があります。

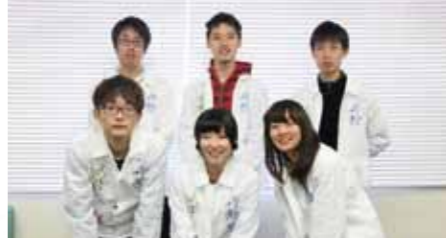
各階ごとに月に1回ブロック会議で連絡事項を共有し、会議後は全員で寮内の掃除を行います。会議で顔を合わせるのが月1回のみなので、清和寮より寮生同士の交流の機会には少ないかもしれませんが、寮生同士の距離感が人それぞれなのは同じです。

清和寮との違いは、なんと言っても留学生がいること。留学生と自然に交流できるのは刺激が貰えて、貴重だと思います。碧海寮独自の役割として留学生担当があります。留学生担当は、会議や消防訓練などの際に、日本語があまり話せない留学生に対して通訳やサポートを行っています。

共同生活なので、ルールがあり、共用部分の使用には気を遣います。あとは、人が多いの時には騒がしいときも...。ただ、常に誰かいるので寂しくないし、防犯上も安全だと思います。風邪をひいてしまったときなど、助けてもらえるのもいいところかもしれません。



◎ピアサポーター学生委員会



ピアサポーターの「ピア」は「仲間」を意味しています。仲間として解決方法を一緒に考えるという考えのもとで、学生へのサポートを幅広く行っています。

代表的なものは学期始めの履修相談。通常は総合研究棟3Fピアサポートルームで行っていますが、今年4月には新入生向けに別途ブースを設けて行いました。一緒に履修を考えるほか、教養科目なら実際に講義を受けた人から話を聞くこともできます。

また、学内資格である「キャリア・ピアサポーター」の取得を推進しています。上級資格取得者は、教養教育や学生総合支援センターにおけるSA(Student Assistant)として授業補助等を行うことができます。

定期的に他大学のピアサポーター学生委員会や社会人団体との交流も行っています。多くの人と関わり視野が広がったと思います。今後イベント開催を増やすなどして、学内での認知度を高めていきたいです。

◎留学生支援

RAF(Resident Assistant for Foreigners)

留学生寮のシェアルームリーダーとして留学生をサポート



生物資源学研究所
博士前期課程 2年
寺田 真衣

市役所での手続きを助けたり、日本語の作文を添削したり、生活から学業までなんでもサポートします。留学生と一緒にいると、日々新たな発見があって面白いです。

日本が大好きだから、留学生にも日本を好きになってほしい。そんな気持ちで活動しています。

RAFとして活動を始めて、もともと興味の無かった海外を好きになりました。また、今では英語の勉強も始めています。RAFにはもともと海外が好き、英語が得意という人が多いですが、自分のように海外に興味のなかった人が興味を持つきっかけになってくれたら嬉しいですね。

◎チューター

マンツーマンで生活や授業をサポート



人文社会科学研究所
地域文化論専攻 1年
榎木 宏成

今年の4月から1年間滞在予定のドイツ人留学生のチューターとして活動しています。きっかけは指導教員からの紹介で、自分自身も留学生との交流には興味があったので引き受けました。

お互いに予定を合わせて、一対一で指導します。担当している留学生は、崩し字に興味を持っているので、その読解の仕方を主に教えています。

日本文化を紹介できることがやりがいです。将来は学芸員になって広く日本文化の魅力を紹介したいと思っています。自分自身の成長にも繋がると感じています。

来たれ!三重大学へ! Part2

特集

私はこうして三重大学へ入学した ～現役三重大学生へ聞く、過去・現在・未来～

現役三重大学生へインタビューしました!



一人一人に物語があるんだね!!

三重大学では7,000人を越える学生が学んでいます。彼らはどのようなきっかけで現在の分野を志し、三重大学への進学を目指したのでしょうか。現役三重大学生にインタビューする大人気企画の第二弾!

人文学部
仕事と家庭を両立できるような環境づくりをしたい!



法律経済学科 4年 柏木 麻佑
人文学部の穴場スポットです!

教育学部
世界が広がった!



美術教育コース 3年 三谷 沢子
専攻は絵画です。最近は風景や動物を描いています。

医学部・医学科
患者さんに寄り添う医師を目指して!



医学科 4年 林 優里
医学部人体模型展示コーナーにて

医学部・看護学科
“カッコいい”看護師になりたい!



医学部看護学科 3年 岡本 直也
医学部軽音楽部でテナーサクソフを吹いています!

工学部
プログラミングが好き 自分にぴったり



情報工学科 3年 毛利 真士
情報演習室にて

生物資源学部
気象学は地球との対話!



共生環境学科 3年 太田 圭祐
実験で使用する生物資源学部屋上の気象測器(右)とラジオゾンデ(左)です!

きっかけ
自宅から通える距離の大学を探していて、いろいろな大学のオープンキャンパスに参加していくうちに、三重大は1つのキャンパスに全ての学部が集まっていて、幅広い交流ができそうで良いなと思いました。
もともと、経済学に興味を持っていたのですが、高校で政治経済を勉強していくうちに政治にも興味を持ち始め、経済学と並行して、政治や法律も勉強することができる法律経済学科を選びました。

入学してみても
敷地の広さに驚きました。1年生の時はいろいろな講義をとっていたので、教室の移動が大変でした。自転車は必需品だと思います。
また、教養教育の講義では他の学部の人たちとの関わりもあり、人文学部だけでなく、他の学部の友達もできたことや、上限はありますが、文化学科と法律経済学科の両方の授業を修得できたのが良かったです。
卒論では、インフラ系の会社の効率性評価について調べています。

将来は
インフラ系の会社に就職する予定なのですが、就職後は人事に関わり、女性も男性と同じように働ける職場環境を整えていくための制度作りにも携わっていきたく思います。
人事に関わりたいと思うようになったきっかけは、私自身が結婚や出産を経て仕事を続けたいと考えていて、就職活動をしながら、現行の制度ではまだ難しい部分がたくさんあると感じたことです。そこで、制度が充実したら私と同じような考えの方々も仕事を続けやすくなるのではないかと考えました。男性も女性も仕事と家庭を両立できるような環境づくりをしていけたらいいなと思っています。

★三重大学を目指す皆さんへ!
人文学部では幅広い分野を勉強することができるので、自分に興味のあることが見つかると思います。世の中の様々なことに興味を持って、それがきっかけで人生の選択も変わってくるので視野を広げてほしいなと思います。
高校生活は長いようで短いので一生懸命楽しんでください!

きっかけ
小さいころから創作活動が好きで、美術について学べる学校に行きたいと思っていました。そんな時に、高校の美術部の顧問の先生が三重大学の教育学部美術教育コース出身で、美術も教育についても学べるよ、と勧められ三重大学美術教育コースへの進学を決めました。

入学してみても
勉強することは教育と美術半々ですが、特に美術は専門的で、絵画、彫刻、工芸など、様々な事を学ぶことができ、視野が広がりました。音楽も好きなので、一年生のときからアカベラサークルに入っています。絵画などとは別の方向で技を磨くことができ、良い刺激になっています。美術もサークルもどちらも楽しく、自分のしたいことに専念でき、充実した毎を送っています。
また、去年の文化祭のコンテストでミス三重大に選ばれたことをきっかけに、自分からなにかを発信することがおもしろいと思うようになり、今年、津クイーンに応募し、2017年度津クイーンとして三重県内で様々な広報活動に参加しています。

将来は
以前は美術の先生か学芸員になりたいと思っていましたが、ミス三重大になったことをきっかけに、企業の広報の仕事をしたと思うようになりました。学んだ美術についても活かしながら、人と接するのも好きなので、たくさんの人達と関わることが出来るような、広い世界で働きたいと思っています。

★三重大学を目指す皆さんへ!
私は美術と教育に興味を持って入学しましたが、三重大学に入っているいろいろな経験ができ、選択肢が増えました!勉強はあまり得意ではなかったのですが、美術について学びたいという目標や、やりたいことがあったので頑張ることができました。目標ややりたいことをしっかり持って合格に向けて取り組んでいくとよいと思います。
ぜひ頑張ってください!

きっかけ
医師を目指すきっかけとなったのは、小学校低学年の時にかかりつけのお医者さんにアレルギーを治療してもらってうれしかったことです。それと人と話をすることが好きで、医師という職業は、実際に患者さんと対話をしながら診断をしていくという、人に関わられる仕事であると思ったからです。また、三重県出身で、家族のサポートも受けられやすく友人も多いので、働けたら三重県がよいと思ったので、地元の三重大学医学部を受験しました。

入学してみても
授業や部活動を通じてたくさんの人と関わりを持つことができ、毎日が充実していて、三重大学に入学して本当によかったと思っています。3年生の後期からは、臨床系の内容に入り、身近な疾患を学べるようになって、講義や実習が楽しくなり、自分から進んで勉強しようと思えるようになりました。4年生の1月からは、参加型臨床実習が始まります。座学とは違って様々な知識を必要とされるので、さらなる研鑽を積んでいきたいと思っています。
また、医学部は部活動が活発です。私は卓球部に所属しており、8月の西日本医科学生総合体育大会では、キャプテンとしてチームを引っ張り8連覇に貢献しました。大会後、一旦引退しましたが、現在も続けています。部活動と勉強の両立は大変ですが、今は、医師になることに向かって勉強できることが楽しいです。

将来は
内科系か小児科に進みたいと思っています。知識をつけて適切な診断と治療ができる医師になりたいと思います。医療技術だけでなく、患者さんの不安を取り除き笑顔になってもらえるような気持ちに寄り添える医師を目指しています。

★三重大学を目指す皆さんへ!
大学は、高校とは違って出会いが多く、考え方も違った人と出会うので、思考の幅が広がるのが面白いです。今は目標に向かって受験勉強に励んでいると思いますが、入学したら勉強はむしろのんびりと部活動やアルバイト、ボランティア活動などいろいろなことにチャレンジしてもらいたいと思います。

きっかけ
地元の熊野市から一番近い国立大学、という理由で三重大学を選びました。できるだけ両親にお金の負担を掛けなかったことも理由のひとつです。
高校で将来のことを考えたとき、漠然と「医療職ってカッコいい」と思ったことが看護師を目指すきっかけになりました。人を救う知識と技術を身に付けて、いざという時に行動できる人になりたいと思っていました。また、女性が多い中で、男性であることで役に立てる機会も多いのではないかと考えました。

入学してみても
看護学だけではなく、教養教育の科目で様々な講義を受けられたのが意外でした。他学部で自分とは全く違う分野の専門職を目指している人と交流ができ、視野が広がりました。
ばりばり看護の技術を身につけるイメージだったので、入学してすぐに座学中心で、専門学校へ進学した友達と比べて、内心焦りも感じていました。しかし、3年生から本格的な実習が始まり、その中で基礎知識の大切さを痛感しました。

サークル活動
医学部の軽音楽部に所属して、ジャズをやっています。医学部の部活は同じ分野を目指す先輩と知り合えし、スケジュールが合うので参加しやすいのが良い所です。医学部軽音楽部は50人くらいいて、医学部の部活の中ではかなり多いほうだと思います。普段はビッグバンド形式で演奏していて、年に一回の定期演奏会に向けて練習しています。
それ以外にも、少人数編成であるコンボ形式で、附属病院の最上階のレストランで月に一度、患者さんを相手に演奏しています。

将来は
最初は最先端の技術が集約されている三重大学病院で働いて、最終的には地元に戻りたいと思っています。
患者さんの中には、仕事や家庭のことなど、葛藤や悩みを抱えている人もいます。身体的なケアを提供するだけではなく、悩みを打ち明けられるような、精神的なケアもできる看護師を目指しています。

きっかけ
三重大学を選んだ理由の一つは、自宅から大学へ比較的通いやすいことです。また情報工学科を選んだ理由は、大学に入る前からプログラミングをしていて、プログラミングを含めコンピュータに関することについて学びたいと思ったからです。

入学してみても
入学してみたら想像以上に自分の学びたいことが学べると思いました。プログラミング以外にも、コンピュータがどう動いているかといったことについても興味があり、それらのことについての講義もあるので、幅広く勉強ができます。先輩や後輩との交流も活発で、その交流のなかで、サークルに入ることもなり自分の興味のある競技プログラミングに進んでよかったです。

サークル活動
昨年からできた「計算研究会」に入っています。同期も含め、先輩や後輩から、情報系の様々な分野の話が聞けて自分の刺激になっています。サークルでの僕の主な活動は、ICPC(競技プログラミングの大学対抗コンテスト)への参加です。このコンテストでは、3人1組で対戦し、与えられた課題について個人の実力だけでなく、メンバー間で協働してプログラミングを行う、チームワークが大切な競技です。一昨年、昨年に続き今年も国内予選を勝ち抜き、12月16日～17日に行われるアジア地区予選への出場を決めることができました。
今年の大学祭では、VR(バーチャルリアリティ)の体験会や、IT技術の解説などを行いました。僕は人工知能(AI)に関する話をしました。将来は大学院に進んで、このような分野の研究を続けたいと思っています。

★三重大学を目指す皆さんへ!
興味もてる学科や志望先を選ぶことができると、大学の4年間が有意義なものになると思います。入学前に一度Webシラバスを見てみて講義内容を調べてみるのがおすすめです。大学に入った後は、いろんな人と話をしたり自分で調べたりして、自分の知らなかった様々な分野のおもしろさを知って、最終的に自分の興味のある方向へ進んでいる事ができたらいいかなと思います。

きっかけ
高校生の頃は陸上部に所属していました。部活中、急に雨が降ったり風が吹いたりすることを不思議に思うようになり、気象に興味を持ちました。進路選択の時期に気象を研究できる大学を調べた際、三重大学の生物資源学部のことを知り、進学を決めました。

入学してみても
入学して驚いたことは、生物資源学部には様々な研究分野が集まっていることです。私の希望した気象の他、生物、海洋、森林、畜産、土木、更には機械やコンピュータ系の研究分野までもがあることに驚きました。多種多様な分野を学んだことは、今思えば自然環境を学ぶ上で必要不可欠なことだったと実感しています。
また、練習船「勢水丸」や演習林、農場、水産実験施設など、キャンパス外に学びのフィールドがあることも魅力です。特に、勢水丸は他学部の同輩や、他大学の学生さんと乗船し、太平洋沖の黒潮上でラジオゾンデ(遠隔の気象観測機)を飛ばしてデータを得たことが印象深いです。船を持っている大学って、珍しいんですよ!!

研究テーマ
気象学は広い視野を必要とする学問です。大気は海流と密接な関係があり、気象現象の分析にはパソコンの知識や、統計学的な知識も必要になり、更に同じ空の下には人類を含めた様々な生物が存在しています。つまり、気象学と他の学問は離して考えることはできないと思います。先の話にも繋がりますが、気象以外の科目を学んだことで知見が広がり、それが現在の研究分野に活用できています。
様々な分野を学ぶ中で、入学時には天気予報の手法について興味がありましたが、現在は地球規模の気象現象についても興味を広がってきました。将来は、気象の研究とは直接関係なくても、人々の生活を影から支えるような仕事に就きたいと思っています。

★三重大学を目指す皆さんへ!
高校の勉強を大切にしてください。大学入学後、特に下宿をすると、世界が自分の周囲だけで完結してしまいがちです。そんなとき高校で学ぶ教科は、様々な分野にアンテナを張って自分の世界が広がるきっかけになると思います。受験勉強は暗記になりがちで、嫌になってしまうこともあると思います。そんな時は、自分が将来やってみたいことを調べてください。今自分が勉強していることが、将来の自分の夢に繋がっていることがわかると思います。